



国際文化紹介ブース4月・ミャンマー編
 せんとびゅあⅡで、東川町国際交流員
 (CIR) が母国に関連した書籍を紹介!!

担当CIRからヒトコト

ミャンマーに関する政治、言語、食文化、小説などさまざまな本を展示しています。ぜひ、ご覧ください！
 ナンモモジン

※一部館外貸し出しできない書籍もございます。

ほんの森 司書のオススメ



せんとびゅあⅡ ほんの森

【貸し出し】
 図書、紙芝居、雑誌は一人合計10点まで(15日間)
 DVDは一人2本まで(8日間)

★本、DVDの蔵書リクエストもお受けしています

彼女たち (一般書)

桜木 紫乃 / 著 中川 正子 / 写真 KADOKAWA / 刊



人間関係につまずきひとりぼっちを選んだイチコ。「自分のために、納得ゆくまでやってごらんよ」と背中を押されて生き方の舵(かじ)を切り直した彼女は、一匹の猫と出会い新たな感情を手に入れる。イチコ、モネ、ケイ。年齢も生い立ちも異なる彼女たちの人生は、喫茶店がかすかに交わりささやかに変

化する。直木賞作家と人気写真家が贈る、心に寄り添うフォトストーリー。

世界を知ろう!



ミャンマーの国花・バダウ

東川町国際交流員 (CIR) ナンモモジン

東川町の4月はまだ寒いですが、母国のミャンマーでは、4月になると気温が約40度にまで上昇して、暑い日が続きます。そしてもうすぐ、ミャンマー暦の新年に、最大のお祭り「ティンジャン祭り(水掛け祭り)」が始まります。

今年4月13日～17日、ミャンマー全国で新年のお休みとなります。ティンジャン祭りは古い年の不幸や心の汚れなどを水で流し、きれいな心と新しい身体で新年を迎えるという意味で行われます。最も暑い時期で、祭りの間国民がお互いに水を掛け合って祭りを楽しまます。

さて、皆さんは「バダウ」を知っていますか。ミャンマーではティンジャン祭りの時期に黄色い小さな花「バダウ」が咲きます。バダウはミャンマーのほかラオスやタイ、ベトナム、インド北東部でも見られます。4月の「水掛けの雨」という柔らかい一番雨が降ると満開になり、花の爽やかでほんのり甘い香りが夏風と一緒に漂います。バ



ダウは年に一度だけ咲いてから、わずか4日間で全部散ってしまう儚い(はかない)花であるからこそ、ミャンマー国民に最も愛されている国花で、日本の「桜」に相当する花なのです。

ミャンマーは仏教徒なのでバダウが咲くと仏像に最初のバダウをささげたり、自宅に飾ったりします。そしてバダウを髪に飾ったり、耳に挿したりするのは女性たちのたしなみです。愛を伝える風習として、その時期に男性たちは自分が好意をもっている女性にバダウをプレゼントすることもあります。町中が黄色一色で包まれます。

昔からバダウに関する絵画や詩、歌、小説、映画などが多くあり、道やお店の名前などにも広く使われていることから「バダウ」への愛が感じられます。

バダウは中木で高さ10～30m、幹の直径は1.7mほどです。耐久性があるため、家具や建設用木材、電信柱、荷車の車輪、楽器作りに利用されています。バダウの木材はミャンマーにとって価値あるものです。

これまではバダウは年に一度、それもミャンマーの新年、4月にのみ咲く季節に忠実な花でしたが、最近では地球温暖化の影響で年に3回ほど咲くようになりました。皆さんもいつかミャンマーに訪問した際はバダウの花を鑑賞してみてください。